

令和4年度三重県立飯野高等学校全日制学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○地域から愛され信頼される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自分と他者の違いを認め、自分を大切にし、他者を思いやることのできる生徒 ○基礎基本の力を身に着け、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒 ○専門的な知識、技能の習得を通じて、自由で豊かな表現力、創造力を発揮できる生徒
	ありたい 教職員像	○生徒一人ひとりが自らの目標に向かって真剣に取り組むことができるよう、生徒のよき理解者となり、適切なサポートができる教職員 ○学習指導や生徒指導などの指導力向上をめざして、ともに学びあい学び続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		【生徒】 専門的な知識・技能の向上、楽しく充実した高校生活 【保護者】 卒業後に自立できる基礎力と専門性の涵養 【地域】 デザインや英語力を活かした活動など、本校ならではの社会貢献	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 高校卒業後の進路実現 〈中学校〉 多様な生徒の受け入れ 〈地域〉 確かな学力と日本語力の育成	〈保護者〉 本校の教育に対する理解と学校の活動に対する協力 〈中学校〉 高校生活に適應できる生徒の育成 〈地域〉 企業等の積極的受け入れ	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導をはじめ全般において、先生方の頑張り、努力が感じられる、今後も継続してほしい。 ・応用デザイン科、英語コミュニケーション科とも素晴らしい発表、ステージに感動し、圧倒された。 ・生徒たちの輝ける場があり、懸命になりながらも楽しみながら取り組んでいることはよい環境である。 ・特性豊かな環境なので、三重県内だけではなく唯一無二の学校に育つのではないか。 ・ケーブルテレビ等を利用して情報発信し、鈴鹿市や県民に学校を知っていただきたい。 ・満足度アンケートにおいて、生徒と保護者の回答の相関性を分析すると課題がわかりやすくなる。 ・コロナ禍において行動制限が強いが、行事を精選することで生徒の思い出として残すべきものは守るべきである。 ・美術、英語の専門学科に定時制という3つの特色があり非常に珍しく、特徴を持った生徒たちを知ってもらうためにPR方法を検討するとよい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	専門性の高い特色ある教育を通じて、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚い。また、CLD生徒への理解が進んでおり、日本語教育を始めとして組織的な支援ができています。一方、基礎学力や基本的な生活習慣、また進路意識が十分でない生徒への支援が課題となっている。 さらに本校ならではの専門教育を充実させるとともに、学習指導と進路指導を効果的に結び付け、主体的な学びの充実に向けた体制づくりが必要である。	

学校 運営等	<p>教員数に限りがあるなか、令和4年度から学年担当を各学年1名増員し、学年主任1名と担任4名の計5名体制とした。このため、学年全体がまとまって動きやすくなるとともに、学年独自の取組を学年主任がリーダーシップを発揮して進めることができるようになった。こうしたなか、教職員に過度な負担を強いることなく効果的に業務を進めるため、さらに分掌間の連携を強めるとともに、生徒の実態と合わない業務の廃止や簡素化、保護者等の学校への協力が欠かせない。また、教職員一人ひとりの指導力向上による学校全体の力の底上げが期待される。</p>
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な生活習慣やマナーの定着 ② 基礎学力の確実な定着 ③ 3年間を見通した系統的キャリア教育の推進 ④ ICT教育の推進 ⑤ CLD生徒支援教育の充実及び日本語教育の推進 ⑥ 多文化共生教育の充実及び命を大切にす教育の推進
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ① 校内各部の連携による生徒支援の充実 ② 教職員の指導力向上に向けた研修の推進 ③ 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流推進 ④ 教職員のコンプライアンス意識の向上 ⑤ 保護者及び地域との連携協力の推進 ⑥ 総勤務時間の縮減及び職場の環境の充実

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の推進	<p>(1) 進路意識向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 進路ガイダンスと事前事後指導による充実 【活動指標】ガイダンス機会、年間6回以上 【成果指標】事後アンケートにおける意識向上60%以上 ② 2年生時におけるインターンシップへの取組 【活動指標】地元事業所等でのインターンシップ 【成果指標】就職希望者数50%以上の参加 <p>(2) 進路希望実現のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自己開拓就職希望者への面談実施 【活動指標】我究と併せた適宜の面談(6・10月) 【成果指標】自己開拓から学校斡旋への変更率30%以上 ② 校外模試と校内課外活動による実践力の向上 【活動指標】基礎力診断テスト及び大学・短大模試の積極的な受験 「我究」の年間20回以上の開講 【成果指標】進学希望者の進路決定率70%以上 学校斡旋の1次試験による合格率80%以上 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス等12回実施 (意識の向上) 1年:80%、2年:75.2% ② 鈴亀地区4社実施 9名参加(75%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 5・6・9月に面談 自己開拓から学校斡旋への変更率 【目標-30%以上→+116%】 ② ・校外模試 3年6回(のべ129人) 2年2回(のべ24人) 1年1回(23人) ・基礎力診断テスト1・2年生ともに2回実施 ・我究:年間27回 【進学決定率】96%(2月末現在) 【学校斡旋】1次合格率88% 	◎

CLD生徒支援教育の充実	<p>(1) 日本語能力による習熟度編成や支援員サポート 【活動指標】 TTBJによる習熟度別クラス編成 一般授業への日本語支援員のサポート 【成果指標】 TTBJの複数回数実施による点数の向上</p> <p>(2) 日本語能力の向上 【活動指標】 日本語能力試験の受験促進 【成果指標】 第1言語が日本語ではない生徒のN3以上の合格率60%</p> <p>(3) 奨学金の申込など経済的に困難な生徒・家庭への支援 【活動指標】 予約奨学金の手続きが滞りなく実施できる。 【成果指標】 説明会、申請手続き指導を年間5回以上</p>	<p>(1) TTBJ3回実施 平均71.9→72.9</p> <p>(2) 受験者数(合格数) N4:2(1)、N3:5(1)、N2: 6(3)、N1:8(6)</p> <p>(3) 7回実施。別途個別での申請手続き指導を数回実施</p> <p>(4) その他 ・CLD生徒対象のインターンシップの実施 24人参加(10社)</p>	
生徒指導の充実	<p>(1) いじめの早期発見と対応 【活動指標】 学期に1回の面談と、事前アンケートの実施</p> <p>(2) 身だしなみの指導と、規則正しい学校生活の確立 【活動指標】 服装頭髪指導を年間6回 【成果指標】 イエローカード発行枚数550枚以下(令和3年度610枚)</p>	<p>(1) 1・2・3各学期面談及びアンケート実施済</p> <p>(2) 6回実施 727枚(増加の要因:昨年度コロナで休校あり、今年度チェック項目強化のため)</p>	※
人権、多文化共生、命の大切さについての学びの充実	<p>(1) 人権についての理解と知識を深め、互いを尊重する意欲と態度を育むための人権学習の実施 【活動指標】 年間5回以上</p> <p>(2) 人権学習や人権に関する取組等の発信 【活動指標】 「人権だより」の発行を年間3回以上</p> <p>(3) 教員の人権に関する研修等の実施 【活動指標】 教職員研修またはフィールドワークを年間1回以上 教職員向け「人権だより」の発行を年間1回以上 【成果指標】 人権に対する意識や理解の深まりを感じた教職員数60%以上</p>	<p>(1) 5回実施(学年別、PTA共催)</p> <p>(2) 3回</p> <p>(3) フィールドワークはコロナ禍のため中止 たより「こだま」発行 【職員研修実施】 満足100%(大変満足85.4%)</p>	◎
基礎学力の向上及び健康意識の確立	<p>(1) 基礎学力の向上 【活動指標】 補習や宿題等を定期的実施 ICTを活用した基礎学力向上(国語・数学)の取組 【成果指標】 ・基礎力診断テスト第1回→第2回の変化 ①D3人数 国語・数学とも10人減 ②GTZ上昇者 国語・数学とも60人以上 ・基礎学力が身についたと感じた生徒の割合65%以上</p> <p>(2) 健康の自己管理の確立 【活動指標】 体温測定等の体調管理と適切な栄養摂取 【成果指標】 毎朝の体調報告及び朝食をとる生徒の割合70%以上</p>	<p>(1) ・タブレットを使用した朝学習の実施 ・長期休業中の宿題補習 【診断テスト変化】 ①国語:18人減 数学:36人減 ②国語:101人上昇 数学:133人上昇 【感じた生徒】 80.3%</p> <p>(2) 【健康管理実施率】 1年:71.6% 2年:74.7% 3年:68.5%</p>	

改善課題

- CLD 生徒の非正規雇用率が依然として高いなか、当該生徒が進路を自己決定できるよう、初期指導の在り方をはじめとして、さらに検討を重ねる必要がある。
- 進路指導部と担任団の間で、指導方針ならびに進路指導の諸取組等について、共通認識にもとづいた連携が必要である。
- 年間を通じて生徒の気持ちや行動の傾向を把握し、それぞれの時期に応じた的確でめりはりのある生徒指導が必要である。
- 基礎学力の定着に向けた取組については、テストの結果を共有するだけでなく、結果の内容を分析するなど本校生徒の特徴を把握したうえで、効果的な取組実践につなげることが必要である。
- 人権教育については、関係教職員の負担軽減に向け、平和学習をはじめとする諸取組をはじめ、取組内容・方法の再検討が必要である。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善を図るための教職員の指導力向上	<p>(1) 異教科の教員2～3人でチーム編成し、相互に授業を見学する。指摘し合うことで授業力向上を図る。 【活動指標】 授業見学を年間2回以上</p> <p>(2) 授業改善に向けた教職員の授業研修会の実施 【活動指標】 授業研修会を年間1回以上</p> <p>(3) ICTを活用した授業の実施 【活動指標】 ICTを活用して授業実践した教員80%以上</p>	<p>(1) 授業見学2回実施 (6月、11月)</p> <p>(2) ICTに関する研修2回実施(8月)</p> <p>(3) 活用実践82.8%</p>	◎
応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流	<p>(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流授業、学校行事、卒業制作展、英語表現演習発表会等で交流をする。 【活動指標】 交流会を年間5回以上</p>	<p>リトルワールド：2回、学科紹介、修学旅行、卒業制作展見学、英語表現演習発表会鑑賞 計6回</p>	
地域への貢献活動と情報発信	<p>(1) 鈴鹿ロータリークラブとの交流、連携 【活動指標】 地域の清掃など貢献活動の実施 【成果指標】 生徒が参加する行事を年間1回以上</p> <p>(2) 積極的な中学校への学校紹介 【活動指標】 各中学校や市教委が開催する進路説明会へ教員だけでなく生徒とともに参加する。 【成果指標】 志願者数が前年度以上</p> <p>(3) 主体的な異校種連携 【活動指標】 地域の小学校へ訪問して出前授業の実践 【成果指標】 受入校児童および本校参加生徒のアンケート満足度75%以上</p>	<p>(1) ①6月17日学校環境デーに生徒77名が参加 ②7月5日タブレット寄贈式 ③12月7日RD例会に生徒実践発表</p> <p>(2) 従来の説明会だけでなく学習塾への説明(1件) 中学生への個別対応(6件) 【前期選抜志願者】 応デ4人 英コミ20人</p> <p>(3) 鈴鹿市立牧田小学校1, 2年生に外国の遊びを紹介(2日間)、同校4年生と英語学習での交流(1日) 【アンケート満足度】100% ・小学生の長期休業中宿題支援に参加</p> <p>(4) その他 鈴鹿市国際交流協会主催「わいわい春まつり」実行委員として生徒7名参加</p>	
教職員や生徒、保護者への情報提供、情報発信	<p>(1) 生徒、保護者の学校に対するニーズや信頼度等を把握するためのアンケートの実施 【活動指標】 アンケートを年間1回(12月実施) 【成果指標】 保護者の学校に対する信頼度80%以上</p> <p>(2) 生徒、保護者への携帯メール(マチコミメール)に</p>	<p>(1)92.6% (2)47件</p>	※

	<p>よる情報提供</p> <p>【活動指標】 マチコミメールを年間40件以上</p> <p>(3) HP、たより等による情報発信</p> <p>【活動指標】 ①HPの到着情報を年間30件以上</p> <p>②「保健だより」を年間5回以上配付</p> <p>③「図書だより」を年間8回以上配付</p>	<p>(3)</p> <p>①HP 30件</p> <p>②保健6回</p> <p>③図書11回</p>	
<p>職員の総勤務時間の短縮及び職場環境の整備</p>	<p>(1) 総勤務時間の縮減</p> <p>【活動指標】 ①設定した日(年間12日)の定時に退校できた職員の割合70%以上</p> <p>②予定通り休養日(週1回以上)を実施できた部活動の割合100%</p> <p>③放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合70%以上</p> <p>④夏季休業中の学校閉校日を4日</p> <p>【成果指標】 ①年360時間を超える時間外労働数0人</p> <p>②月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人</p> <p>③1人当たりの月平均時間外労働30時間以下</p> <p>④1人当たりの年間休暇取得日数15日以上</p> <p>(2) 安心・安全な職場環境づくり</p> <p>【活動指標】 「信頼される学校であるための行動計画」の周知および実施</p>	<p>(1)</p> <p>①定時退校71%</p> <p>②部活動100%</p> <p>③会議71%</p> <p>④夏季冬季計4日間</p> <p>①年360h 越え:7人</p> <p>②月45h 越え:52人</p> <p>③月平均:26h</p> <p>④年休暇:20日</p> <p>(2)</p> <p>学校信頼向上委員会より年間計画の実施によって周知</p>	◎
改善課題			
<p>・昨年学校関係者委員から提案があった職員に対する重要度・満足度調査について検討なく、未実施であった。来年度の実施に向け検討が必要である。</p> <p>・生徒、保護者アンケートについては、趣旨を再整理し、学校の取組改善に資する内容となるよう検討が必要である。</p> <p>・職員の勤務時間の短縮に向け、管理職が率先して定時退校に努めるなど、働き方改革に向けた職場の雰囲気づくりに努める必要がある。</p> <p>・地域への貢献活動については、特定の職員に負担がかからないよう、取組内容や回数について検討が必要である。</p>			

5 学校関係者評価

<p>飯野高校の現状から先生方の努力による成果が感じられる。特に他に例のないCLD生徒への各種の取組には、飯野高校の先生方だけでなく他の団体や組織と連携をして素晴らしい成果となっている。インターンシップ等は定着に時間がかかっても、生徒たちの将来の生活に繋がっていくので続けてほしい。</p> <p>飯野高校は、地域の財産であり資源である。地域にはたくさんの企業などもあるが、地域の10年後20年後の発展には、飯野高校や若者が不可欠である。今の取組を継続して地域の未来を支えてほしい。</p> <p>応用デザイン科の生徒たちは自分の考えやイメージを絵やデザイン、ファッション、造形などのいろいろな形で表現をしてくれている。その表現を事あるごとに展示して披露いただく取組は素晴らしい。また、英語コミュニケーション科の発表会においても堂々と発表し、生徒たちの思いが伝わり感動した。両科とも生徒たちの成長が見て取れ、制作に費やした時間や思いも伝わります。</p> <p>先生方の丁寧で適切な指導で、未成熟な中学生が立派な高校生になり、各自の進路に進んでいる。ぜひ、中学生に飯野高生の体験を聞かせ、中学生の気づきと高校生の自己肯定感の醸成に繋げたい。</p>
--

6 次年度に向けた改善策

<p>・進路指導部と学年の間で情報交換及び諸取組にかかる協議の場をつくる。</p> <p>・CLD 生徒の教育の充実に向け、国際サポート委員会を中心に組織的な取組を進めるとともに、定時制との間で情報交換や協議の場を設ける。</p> <p>・学年を中心に進路指導(キャリア教育)と学習指導(探究活動)を有機的に結び付ける実践を進める。</p>
--